

## ワンポイント アドバイス (NO. 6)

ガソリンは、引火点が-46度と低く、爆発の危険があるほか、蒸気は、閉鎖区域内に滞留するので、注意が必要です！

『ガソリンの蒸気を長時間吸引すると意識不明となり、閉鎖区域内に倒れ込むなどすると、ガソリン中毒で死亡する場合がありますので注意が必要です。』

- ◎ **ガソリンの蒸気を吸引**すると、当初は、意識混濁、頭痛、めまい等が生じ、更には**意識不明**となり、**最悪死亡につながる**ので注意しましょう。
- ◎ **閉鎖区域に入る前**には、通風を十分に行った後、**必ずガス検知及び酸素濃度を**確認し、安全を確かめましょう。
- ◎ **閉鎖区域への入域時**は、**緊急時に対応できる資機材**（自給式呼吸具、救出及び蘇生器具等）を直ちに使用できるよう入口付近に準備し、**監視員を**配置しましょう。
- ◎ **ガソリンを扱う作業を行う場合**は、安全管理マニュアル等に定める**保護具**（保護衣、保護メガネ、ゴム手袋）の着用、作業手順を確実に順守しましょう。

# 事故概要

## 船積危険品研究委員会事件事例資料 (No. 6)

<p><b>事案名</b></p>	<p>ガソリン中毒による1名死亡事案</p>
<p><b>事案概要</b></p>	<p>(概要) 油タンカーH丸は、船長及び機関長の二名が乗り組み、S港の岸壁で約150k1のガソリン全量を揚荷し、新たに軽油を積み込む目的でM港に向かっていた某年8月27日8時00分ごろ、ガスフリー作業にかかる前の準備作業(以下「ガスフリー準備作業」という。)を行っていた船長が、ポンプ室でガソリン中毒を発症し死亡した。</p>
<p><b>事故に至る経緯</b></p>	<p>本船は、船長及び機関長の二名が乗り込み、某年8月27日S港の運河沿い岸壁で約150k1のガソリン全量の揚げ荷を終了し、新たに軽油を積み込む目的でM港向け航行中の同日7時50分ごろ、船長はガスフリー準備作業として単独で貨物油ポンプ室(以下「ポンプ室」という。)に入り、貨物油ポンプと吸入ストレーナ(以下「ストレーナ」という。)の間に残留していたガソリンをストレーナから抜き出すことにした。7時57分ごろ、船長は、ポンプ室から操舵室に戻り、機関長に「ストレーナの蓋からガソリンが漏れているのでOリングを交換しなければ」と話し、操舵室の戸棚を開けて保管しているOリングを見たのち、8時00分ごろ再びポンプ室に下りた。</p> <p>機関長は、船長がふだん15分ほどでガスフリー準備作業を終えるところ、操舵室に戻ってこないために異変を感じ、M航路を北進する針路として自動操舵に切り替えたのち、ポンプ室に向い、8時20分ごろ、ポンプ室で蓋が空いたストレーナに向かってしゃがんだ姿勢でポンプ室後壁に寄りかかり、意識不明となっている船長を発見し、船長をその場で仰向けに寝かせるとともに、船長がガソリンガスを吸い込んだため意識不明になったものと判断し、ポンプ室内の空気を攪拌することにより、ポンプ室内のガス濃度を下げようとしてガスフリーファンを運転し、船長周辺のガス濃度が下がったものと思った。</p> <p>機関長は、船舶が輻輳するM航路を操舵室を無人として自動操舵で北進中であることから、早く操舵室に戻る必要があり、排気ファンの運転については、通風筒の頭部が閉まっているうえに、キャンバス地のカバーで覆われていることから、頭部を開けるのに時間を要すると判断し、排気ファンは運転しなかった。</p> <p>機関長は、8時24分ごろ、操舵室に戻って手動操舵に切り替え、海上保安庁に船長の容態を通報するとともに救急車の手配を要請し、M航路を北進して着岸予定のM港の棧橋に向かった。</p> <p>9時00分ごろ、海上保安庁の救助隊員二名が本船に乗船したが、ポンプ室内のガスの種類や濃度が不明であったほか、機関長に代わって操船に当たった救助隊員にとっても本船を操船するのが初めてであったことから、投錨して船長の救助を行うとともにタグボートの手配を行うこととした。</p> <p>本船は9時08分ごろM港港外に投錨、9時15分ごろ、救助隊員が船長を救助する準備として呼吸具及び空気ボンベを着用してポンプ室に入り、ポンプ室内の状況を確認しながら、船長に接近し、9時23分ごろ、救助隊員は、船長が意識不明でありながら呼吸をして脈拍があることを確認したが、一刻を争う状況であった。</p> <p>船長を搬出するためには、搬出に必要な機材の準備を整えたうえで、3層にわたる急な階段を経路としなければならず、時間を要するとの判断から、ダクト付きの携帯型送風機を運転して外気が船長の顔面に当たるようになり、空気ボンベ付きの呼吸具を船長に装着した。</p> <p>10時42分ごろ、タグボートに曳航されて錨泊地点を発し、11時02分ごろM港T岸壁に着岸し、待機していた消防の救急隊員が直ちに船長をポンプ室から搬出し、岸壁において蘇生術を施したのち、救急車で病院に搬送したが、船長はガソリン中毒で死亡した。</p>
<p><b>船舶概要</b></p>	<p>【船種】油タンカー 【総トン数】102トン 【L B D】L 33.30、B 6.40、D 2.80 (m) 【乗組員】船長他1名(経験年数:船長25年、機関長45年) 【前航海積荷ガソリン】</p>
<p><b>参考とした資料</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>船舶事故調査報告書(平成22年10月29日運輸安全委員会船舶事故調査報告書MA2010-10-5)</li> </ul>	